

健康づくり 生きがいづくり 友だちづくり まちづくり

友の会だより

中野共立友の会・広報委員会発行
〒164-0001 中野区中野5-45-4

Eメール：a_nozawa@kenyu-kai.or.jp
Tel:03-3386-9139

くらしに役立つなんでも相談

健康の悩み、生活・家庭の心配ごと、誰に相談したらいいか、どこに相談したらいいか、なんでも気軽にご相談ください。



友の会コーナーへ

ケーブルテレビ中野でも
紹介された作品展



芸能まつりのオープニングは「太極拳」

なかのゼロホールギャラリーで作品展(11月5~7日)、なかの芸能小劇場で芸能まつり(11月27日)が開催されました。中野・杉並9友の会からの出演、出演に来場者は420人と大盛況。共立友の会は全サークルが一年間の活動の成果を発表しました。
また、新井町の旧看護師寮跡にできたグループホーム、コルテンポのみなさんの手話とコーラスはアンコールの大拍手と花束が贈られ、地域との交流を深める事ができました。

サークルの晴舞台

中野・杉並健康友の会まつり



小咄に笑って笑って・朗読



新サークル・トーンチャイムは癒しの音色



在宅患者旅行に
ボランティアで参加

秋晴れの10月16日、バスで葛西臨海水族館に在宅患者さん17人、職員14人、ボランティア2人で出かけました。3年ぶりの在宅患者旅行にワクワク遠足気分です。医師、看護師も同行しているので安心。患者さん一人一人に担当がつけました。水族館は大きなおもしろい魚、珍しい魚、美しい魚等でアチコチ童心に返って歓声が・・・

年に一度はこういう機会を作り、またお手伝いできたらいいなと思います。(亀田朗子) - カンパのご協力ありがとうございました。



新人も加わってより華やか・フラ



情感たっぷり・カラオケ



ト리는歴史ある・
コーラス
「花水木」



みんなで合評(講師は太田画伯)

第五弾 玉川上水

武蔵境 - 久我山 約6キロ

10/25 23人が参加

文学の道
国木田独歩
太宰治
山本有三
落葉ノどん
ぐり拾い
スケッチ

今回の魅力は

健康ウォークで
スケッチに挑戦



グループホーム「コルテンポ薬師の家」のみなさん

友の会 仲間増やし

10月・12月の仲間増やしも友の会は「助け合いの会」ですという説明に快く応じていただき、入会者1000世帯を突破しました。

友の会会員宅訪問

また、10月15日、11月19日の2日間、職員と友の会役員で140軒の会員宅を訪問しました。仲間増やしと協力借入金のお願、ご意見・ご要望など55人の方とお話ができました。



ごめんください、共立友の会です

インフルエンザ

予防接種は友の会価格で

インフルエンザにかからないための予防方法は、マスクの着用、帰宅時のうがいや手洗い、十分な睡眠や栄養ですが、一番の効果は予防接種。65才以下の方は2625円のところ会員は家族全員2200円で受けられます。(数量に限りがあります。お問い合わせを)

目標達成
1000世帯

今年「後期高齢者医療制度」を廃止させるための運動で、多くの会員の方々のご協力をいただきました。

どうぞ、良いお年をお迎え下さい。



秋の友の会旅行

乗鞍岳・上高地・奥飛騨温泉

10/21~22

上高地の魅力に初参加者多数!

この機会に友の会入会



魔王岳の頂上から

元気だね 歩き歩いて かつば橋

(車中でのことば遊びから)

友の会の旅行に参加して

小宮山 昇 (新宿区)

上高地、北アルプスを訪れたのは、実に52年振りです。高貴高齢者(?)の身では、「バスで3000メートルの乗鞍へ」はとても魅力的でした。安曇野を過ぎ、山へ入ってからの紅葉のすばしさは格別で、バスがだらだら坂を登り、視界が開けるたびに拍手と歓声がおき、こんなすばらしい紅葉は初めてでした。車窓から前後左右と見られるスケールの大きさに驚かされ、翌日は黄金色の落葉松林が延々と続くさまは、実に「幻想的」でした。標高2700メートルでバスを降り、あいにく快晴とまではいきませんが、裏からの槍、穂高、笠ヶ岳が望め大満足でした。静かな平湯温泉、各食事、帰りの車中での遊戯、看護師長さんから手の洗い方のアドバイス、等々ほんとに楽しかったです。企画されたスタッフの皆さんに心から感謝いたします。



顔の見える 薬剤師を 目指して

私たちの職場は男性1人、女性3人の華やか?な4人で業務を行っています。

職場紹介

中野共立病院薬局

薬局長 小野 修治

病院内の1階の「スタッフィア」の中に薬局があるのですが、患者さんには、「前の薬局からわざわざ来てくれてありがとう」などと言われ、あまり病院の薬剤師として存在感がありません。(笑)

薬剤師は医師の処方箋のもとに薬局内で薬を作っているだけと思われがちですが、実はそうではあ



りません。一般に病院内の医療ミスの約3割は薬剤に関連していると言われております。私たちは「薬」と「人」をモットーに、専門性を活かし、病院の至るところに目を光らせて、できる限りミスの起こりにくいシステム作りをしています。

薬を自己管理できる方には、ベッドサイドに行き外来と同

時と同じ服薬管理ができるようにしていきます。

製薬メーカーの偏った過剰広告に惑わされないように、「有効性・安全性・経済性」の3本柱で調査し、採用の検討をしています。今流行りのジェネリックに関しても、同等性や今までの外観の違い、経済性を全て考慮して採用しています。

また門前にある調剤薬局をはじめ地域の薬局と連携して、退院してから入院

人体の解剖

人体の「解剖」と耳にしたとき、皆さんは怖い・気持ち悪い・かわいそう、という感じを持つでしょうか。しかし、人体の「解剖」といつてもいろいろ場面があることを紹介します。

司法解剖

犯罪性があるか、またはその疑いのある死体の死因を究明するために行われる解剖で、強制力がある。ただ、犯罪被害死体のすべてが司法解剖されるわけではなく、交通事故など受傷状況が明確な場合は、解剖されない場合もある。

行政解剖

主に死因の判明しない犯罪性のない異常死体に対して、死因の究明をするために行われる解剖で、東京都の場合には監察医務院が行う。この解剖も強制力がある。24時間以内に医療機関にかかっている状態、自宅で死亡した場合等は対象とならない。主治医からの情報で、解剖されない場合もある。

病理解剖

主に入院中の患者さんが病気で死亡した場合に、診断の妥当性・治療効果の判定・直接死因の解明・合併症の

発見などを目的に、病院側(主治医)から遺族にお願いし、同意を得て行われる(遺族からの希望で行われることもある)。解剖で得られた情報は、病理医により「解剖の診断書」として報告され、病院



「解剖」と「献体」について

外科医師 山本 英司 (中野共立病院副院長)

自分の遺体を無報酬で提供することをいいます。生前から「献体」したい大学等に登録しておき、亡くなられたとき、遺族がその遺志にしたがって遺体を大学に提供することによって、はじめて献体が行われます。医師・歯科医師になるうとする学生が、「自分の身体を使って十分に勉強してください」という願いを込めて「献体」された遺体によって学習し、同時に「献体」に対する感謝の気持ちと、その期待に応える責任と自覚を持つという点で、大きな精神的教育を受けています。

家族で話題にしてみても

最近では、死亡時の臓器移植に対する意志表示としてのドナーカードや、白血病治療のための生存時からの骨髄バンク登録等の、人体を利用した治療についての話題があります。治療とは直接関係はありませんが、みなさんの大事な家族が、「解剖」される立場になることや、「献体」を希望されることがあるかもしれません。一度、このような医療の話題で家族会議をひらいてみてはいかがでしょうか。



左から井上、小野薬局長、関根、越川のみなさん